

参入市町村名	新潟県妙高市	
法人等名（業態名）	株式会社妙高ガーデン	
参入の種別	特定法人（農業経営基盤強化促進法）	
農業部門の概要	栽培作物	大葉、ハーブ
	経営規模	4,800 坪（大葉 600 坪×4 棟、ハーブ 600 坪×4 棟）
	雇用者数	社員 15 名、嘱託社員 2 名、研修生 9 名、パート 49 名
地域の概要	<p>【地域の農業の特徴】 県の南西部に位置し、南部は妙高山麓の高原地帯、北部は高田平野が広がる有数の水田地帯。冬場の豪雪により栽培期間に制約。</p> <p>【農業構造】 農家世帯数割合 26%、農業就業人口 16%で、担い手の減少・高齢化が進行。農業産出額の 4 分の 3 が米。</p> <p>【自治体としての農業への取り組みなど】 「農」と「観光」を基軸とした交流の活性化に取り組み、妙高産米のブランド化をはじめとする安全・安心な「食」の提供、豊かな自然環境や温泉の活用など、「食」や「健康」を中心とした地域の魅力の最大限の発揮など、多様な産業振興を目指している。</p>	
参入の動機、きっかけ、参入の経過など	<ul style="list-style-type: none"> ・改正農業経営基盤強化促進法による株式会社参入の第 1 号。 ・オーツーコーポレーションとの連携により当市で開始した「NB ファーム」による大葉栽培が成功したことから、事業拡大のため、新規参入。 ・大葉は農薬を多用する作物と言われるが、障害や子どものアレルギーなど安全なものを食べてもらいたいとの考えから、ミスト農法による無農薬大葉栽培に取り組んだ。 ・参入にあたっては、市による積極的な支援。 	
農業経営（農業事業）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・化学農薬を一切使わない安全・安心な「ミスト農法」により大葉、ハーブの栽培を行っている。 ・敷地面積は約 22,000 坪。地権者 42 名と妙高市がリース契約を締結し、借り受けた農地にハウス、事務所棟（5 条転用）を建設。 	
農産物の販売状況	<ul style="list-style-type: none"> ・提携先であるヴォークストレーディングを通じて販売するほか、独自に販路を開拓。生葉の販売先は生協や大手スーパーなど、加工葉は食品産業に出荷している。 ・ハーブはハウス食品（株）がハウス食品ブランドで一手に販売。今後、加工等を含め、地元妙高ブランドの確立を目指したい。 	
農業参入にあたって苦労したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「冬場は働き場がないところだから」と言われ、雇用の確保を容易に考えていたが、110 名の採用予定に対し十数名しか集まらなかった。 ・国の「元気な地域づくり交付金」の書類作成には悪戦苦闘した。 	
現在の課題、問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブの需要が高まる中、大葉はマーケットが縮小していることから、栽培品目の見直しを行い効率良い栽培計画を策定する。 	
農業参入で良かったと思う点	<p>子供たちの施設見学を受け入れています。一般的に農業は儲からない、安定しないというイメージがあるが、「やり方次第ではそうじゃないんだ」ということを知った時の子供たちの目の輝きを見たときに良かったなと思います。</p>	
今後の展開方向、行政や関係機関に望むこと	<p>農業全体を明るいイメージを持ってもらうためにも、持続可能な農業集団を広げていき、若い人が農業参入できる下地を作っていきたい。</p>	

